

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区名	此花区
学校名	梅香小学校
学校長名	玉川 実二

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・梅香小学校では、第6学年 23名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

算数A、Bともに全国・大阪市の平均正答率を下回る結果となった。しかし、国語Aでは全国平均とほぼ同じ、国語Bでは大阪市を上回る結果であった。平成25年度からの検討課題がまだ解決に至っていないところもあるが、一定の成果が出つつあると考えられる。

梅香小学校の学力実態解決を、国語科では漢字学習、算数科では四則計算に特化して取り組んできた。昨年度の結果からも、子どもたちの漢字の読み書きの習熟や四則計算の正確さは、ある一定の成果があったことを確認することができたが、全体の成績のアップにつながっていないことがわかった。今年度の結果をふまえると、学力のアップには、知識・技能に加えて、成果を生み出す能力いわゆるコンピテンシー（行動特性）を養うことが重要であると

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「話すこと・聞くこと」「読むこと」では全国平均を上回った。しかし、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては全国平均を下回っている。特に「書くこと」においては3ポイント以上も低かった。「書くこと」の中でも「～の結果を基に書く」といった設問が特に弱く、全国平均よりも10ポイント近く下回っている。この「～を基にして書く」といった問題は知識だけでは書くことが難しく、自分の考え方や方法を論理的に説明する力が必要となる。

〔算数〕算数科では全ての領域において全国平均を下回った。特に「図形」や「数量関係」は10ポイント以上下回っている。やはり、算数科においても、念頭操作や説明をする力が弱いということが表れている。また、数学的な考え方や記述式の無回答率をみても、考える力が弱い傾向があるといえる。

質問紙調査より

全国を下回っていた「家で計画を立てて勉強している」児童が、今年度「どちらかといえば・・・」を入れると全国を上回った。一方、1日あたりのゲームの時間は依然として全国よりも多い。また、テレビ等の視聴時間も全国よりも多い。児童の生活習慣が学習中心にならない限り、学力向上の見込みは期待できない。今年度の結果から、自主的に学習をしている児童は増えているが、テレビやゲームにさく時間も増加している傾向もある。本校で行っている生活習慣調査で6年生の睡眠時間が少ないことがわかった。つまり、睡眠時間が削られているのである。これでは、学習中心の生活習慣とは言えない。体力・健康・食育など、ベースとなる生活習慣をしっかりと確立していくことも大切である。

今後の取組

本校では、平成25年度より「学力向上」「英語コミュニケーション力の育成」「ICT活用による教育改革」を学校運営の計画にあげ、基礎・継続・実践をキーワードに取り組を進めている。本年度より、朝のモジュール学習を開始した。この取り組みにより、学習のリズムが生まれ基礎学力の向上につながった。この取り組みは今後も継続して進めていく。また、本校は3年生以上の学年で一人に一台ずつタブレット端末を持てる環境であり、今後、様々な場面で使用していく。そして、日常的に使用できるよう環境を整えていく。さらに、スカイプを使って、市内小学校や他都市、海外との交流授業・出前授業も積極的に進めていく。こういう取り組みの中で、実践を通して「考える力」や「説明する力」を身に付けさせ、成果を生み出す能力いわゆるコンピテンシーを養っていきたい。

【 全体の概要 】

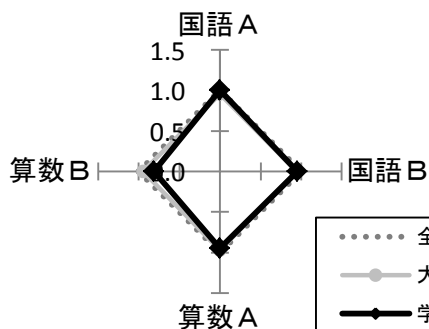
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	73.0	55.2	73.4	38.5
大阪市	69.7	54.6	75.3	44.7
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

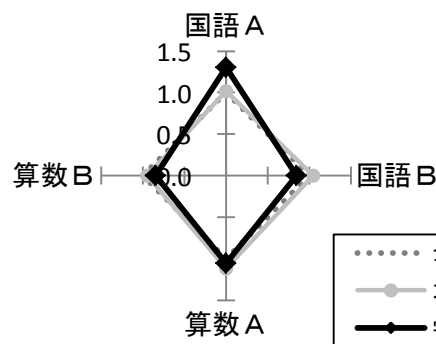
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	6.9	3.9	1.9	6.3
大阪市	5.4	4.8	2.0	7.0
全国	5.3	4.6	1.8	7.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)

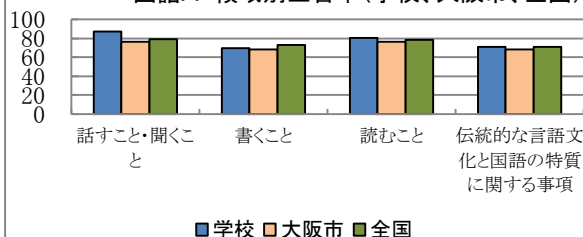


【 国 語 】

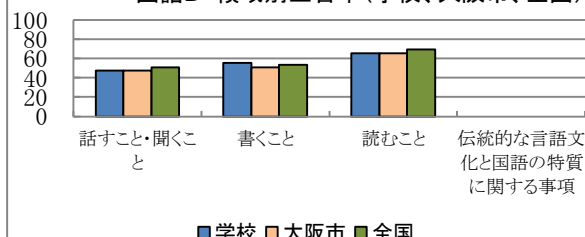
A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	87.0	76.1	79.2
	書くこと	2	69.6	68.1	72.8
	読むこと	2	80.4	76.2	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	70.9	68.0	71.1

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	47.8	47.3	51.1
	書くこと	6	55.8	50.7	53.4
	読むこと	3	65.2	65.6	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

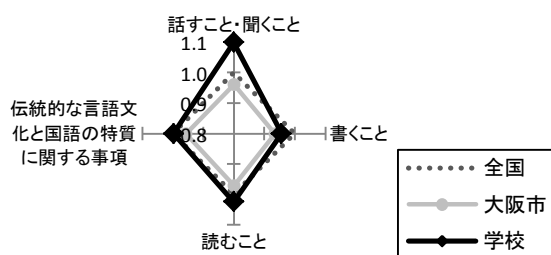
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



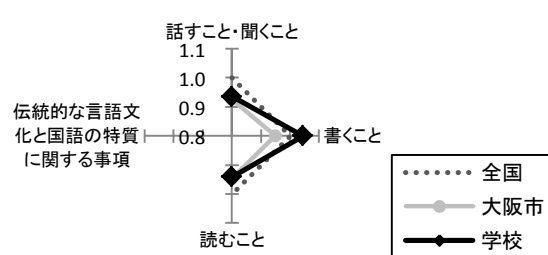
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



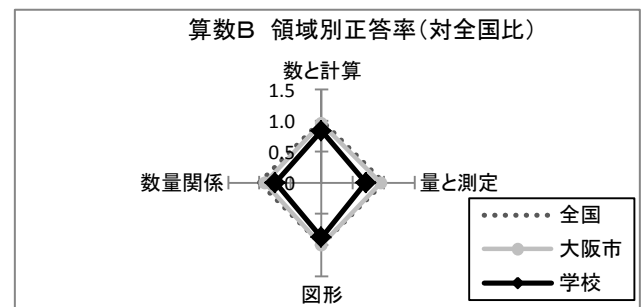
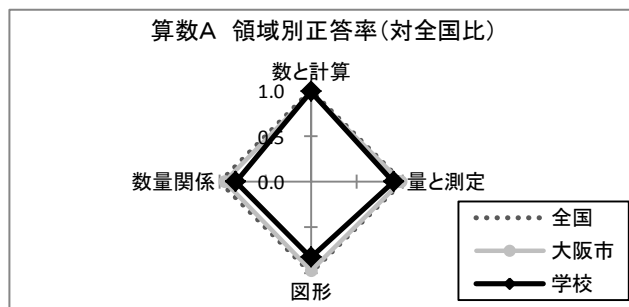
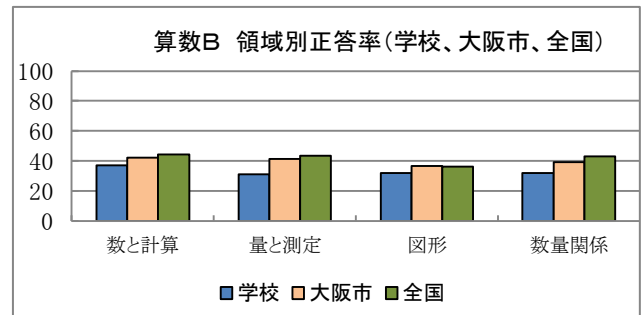
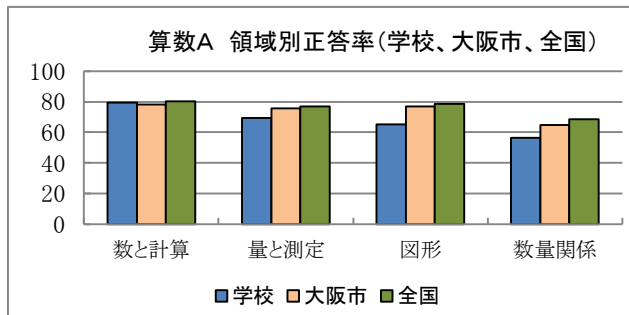
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	10	79.6	78.1	80.5
	量と測定	2	69.6	75.6	77.0
	図形	2	65.2	76.8	78.8
	数量関係	3	56.5	64.8	68.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	6	37.0	42.3	44.4
	量と測定	5	31.3	41.5	43.7
	図形	3	31.9	36.5	36.3
	数量関係	6	31.9	39.2	42.9



児童質問紙より

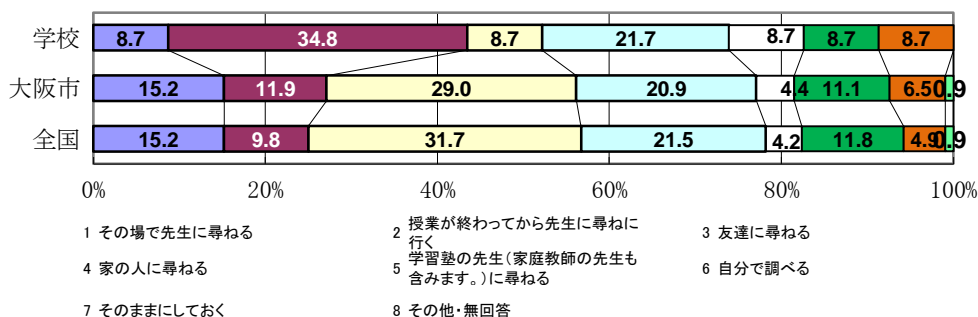
1 2 3 4 5 6 7 8 9

質問番号

質問事項

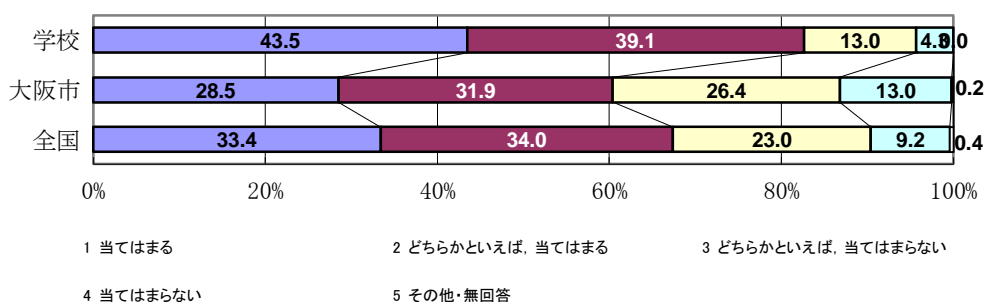
60

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか



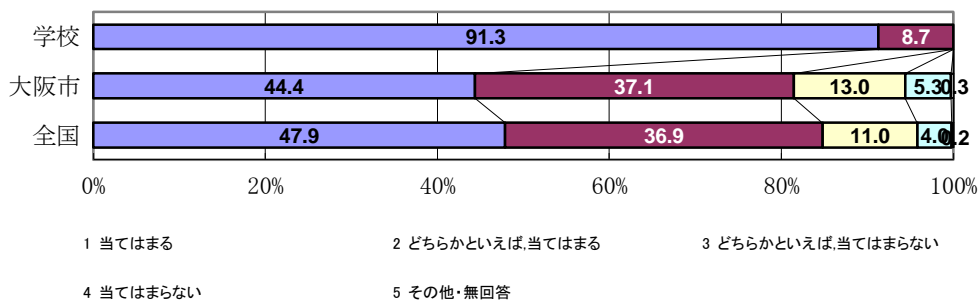
76

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



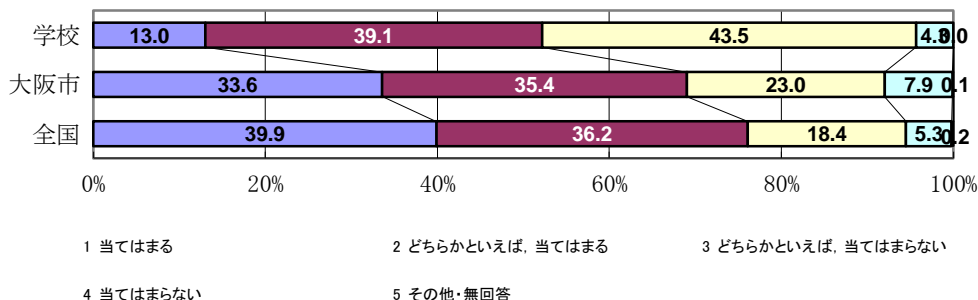
33

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいますか



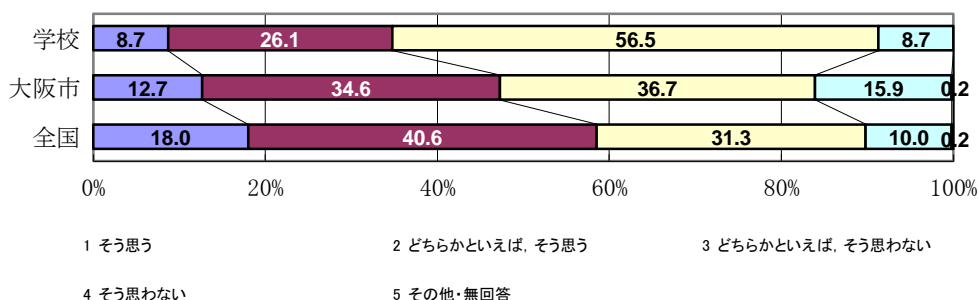
54

5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



30

学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

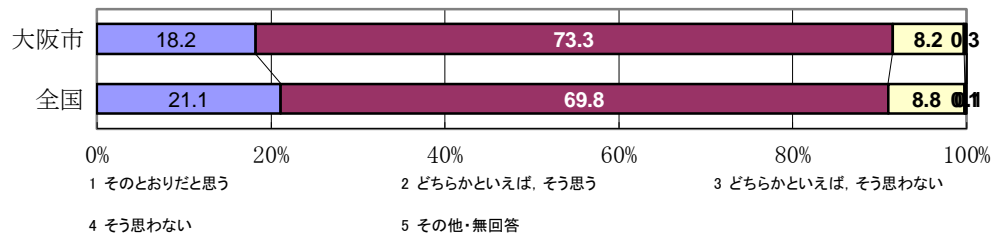
質問番号

質問事項

20

調査対象学年の児童は、
自らが設定する課題や教
員から設定される課題を理
解して授業に取り組むこと
ができていますか

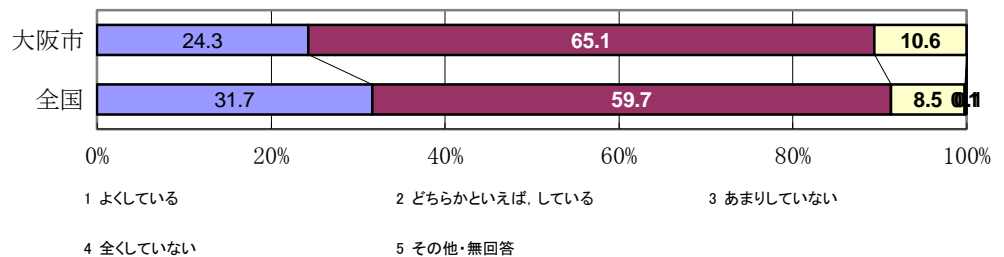
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



34

指導計画の作成に当たっ
ては、教育内容と、教育活
動に必要な人的・物的資
源等を、地域等の外部の
資源を含めて活用しながら
効果的に組み合わせてい
ますか

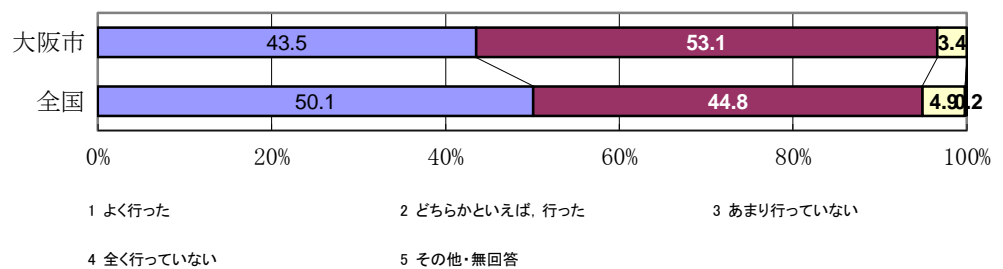
学校 「よくしている」を選択



37

調査対象学年の児童に対
して、前年度までに、授業
の最後に学習したことを振
り返る活動を計画的に取り
入れましたか

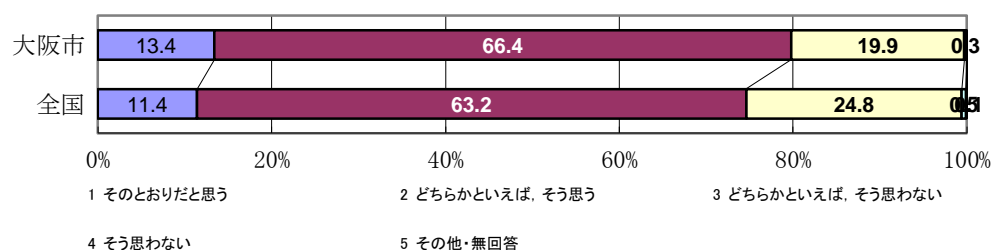
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



17

調査対象学年の児童は、
学級やグループでの話し
合いなどの活動で、自分の考
えを相手にしっかりと伝え
ることができていると思いま
すか

学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



98

調査対象学年の児童に対
して、前年度までに、家庭学
習の取組として、調べたり文
章を書いたりしてくる宿題を
与えましたか(国語／算数共
通)

学校 「あまり行っていない」を選択

